

スポーツを支える技術があります

障害があるからスポーツをあきらめていませんか？

障害の有無に関係なく、スポーツで汗を流すのはとても気持ちがいいものです。

研究開発課では横浜ラポール（障害者スポーツ文化センター）と共同で

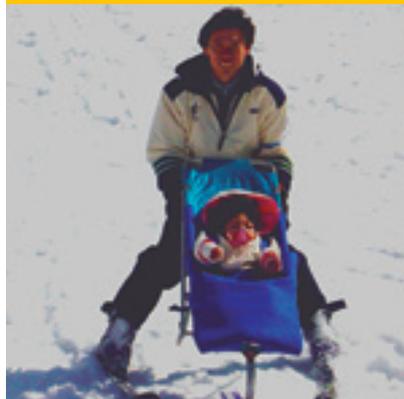
障害のある方が気軽にスポーツを楽しむことを実践しています。

チェアスキー



競技用チェアスキーの開発を行っています。トリノ・パラリンピック 2006 では複数のメダル（金 1 個、銀 3 個、銅 1 個）を獲得することができました。

介助用チェアスキー



重度の肢体不自由がある子どもに対して、チェアスキーを製作しました。普段使っているバギーの要領で介助者が操作できることがポイントです。

ヨット



揺れる海の上でも体が傾かず、安定したセーリングを楽しむことができます。自分でヨットを操縦することもできるようになりました。

エアライフル



頸髄損傷の方に対して、競技用エアライフルを車いすに固定する装置を開発しました。この装置により確実に的が狙えるようになりました。

ボッチャ



脳性麻痺の方に対して、ボッチャを楽しむ装置を開発しました。ボールを保持するヘッドスティック、スロープを支える角度調整金具、車いすへの固定等。

ラポールとの連携



横浜ラポールと共同で障害のある方のスポーツ機器の開発に取り組んでいます。横浜ラポールのイベントに参加してニーズを調査することもあります。